

展望と主張：国家財政

本書は、国家の展望を実現することに役立つ国家財政制度はどのような構築するかを論じるものである。1990年以来、財政赤字の問題は台湾の政治舞台にしばしば登場し、毎年の立法院の予算審議の際に焦点となり、さらに政党政治の形成と二回の政権交代に伴い、国民の間に注目される課題となる。しかし、どの政党が与党になっても、我が国に厳しい財政事情があることを認識しつつも、双方は財政赤字の責任者は相手側だと互いに責任を押し付け合っている。どの政党が与党になっても、財政問題を解決する考え方には大差がないし、また財政問題を解決するための政策手段にも大差がない。二十数年が過ぎ、いわゆる「財政の再生の年」「税制改革の年」「～年にバランスシートの均衡を達成する」などの政治スローガンは喧しく訴えられ、「開源節流」「0ベース予算」「規律ある財政」など、すべての手段を尽くしてきたが、依然として財政危機の泥沼に陥っている状態だ。

本書は、財政赤字は問題ではなく、問題はどのような理由で財政赤字が累積されるかにあると主張する。もし予算の赤字は921大地震後の復興によるもの、弱者の国民健康保険料への補助によるもの、生徒の給食費への補助によるもの、家庭貧困な生徒の学費を援助して平等な教育機会を受けられるようにするもの、失業者の生計への支援によるもの、または他の社会公益の目的によるものであれば、これらの状況で赤字がなければ逆に問題がある。反対に、もし赤字の由来は、高所得者層の相続税と贈与税

の減税によるもの、軍人、公務員、教師の増給によるもの、毎年700、800億台湾ドルの予算規模に達する公務員らの18%の高利子優遇貯金への補助によるもの、台北国際花博覧会の巨額の支出によるもの、800億円の消費券によるもの、公共事業の不透明な予算編成による用途不明な支出によるものであれば、その財政赤字は問題である。

赤字自身は怖いものではない。怖いのは我々は予算の赤字がどのように生じるかを確実に把握できず、疎かに対応する考え方である。また、もし財政に問題があれば、それは財政赤字の問題ではなく、赤字の累積の問題でもなく、むしろ毎年二兆台湾ドルの国家予算はどう使われるかの問題である。具体的に言えば、現在台湾が直面する真の財政問題は、政府が国民に課税することと国債を発行することを通じて巨大な国家資源の使用権を持つにもかかわらず、国民が直面する経済、社会ないし国家の主権を喪失する危機の解決になるどころか、逆に貧富の差を拡大し、経済的弱者の生存権を脅かせ、その相対的剥奪を強まり、国民の尊厳も侵害されることになる。

財政赤字は今日から始まる問題ではなく、また一度も重視されることがない問題でもない。しかし、我々はこのありふれた財政問題を直面する際に、まずしなければならないことは、我々の今まで財政に対する見方、対応策と各種の主張を再び検討することである。さもなければ、2012年の総選挙が過ぎても、財政問題は依然問題として残る。

具体的な主張について：本シンクタンク

は、国家の主権の完全性の確保と安全保障の基礎となり、国民経済の持続的発展の基礎となり、社会における分配の正義を実現することができる国家財政の政策を提案する。財政の目標は、財政収支の均衡に追求することではなく、むしろ政府の施政を支援する道具である。そのため、財政の目標は「政府の機能の持続性を維持すること」と「国家の資源を有効に運用すること」と「社会における分配の正義」を実現することである。

戦略について：現代国家の財政は民主的手続を経て完成し、財政の主な効果は、資源の分配と再分配になり、それによって必ず社会における各階層間の利益の衝突と関わる。そのため、「良い財政、悪い財政」は完全に健全の民主政が存在するか否か次第である。例えば、政党間の公平な競争、合理的な政府組織、利益団体の勢力均衡とマスメディアの自主性と自律性。もっと具体的に言えば、「責任政治」の確立は、現在我が国が抱える財政問題を解決するための主な戦略となる。

具体的に以下の措置が含まれる。1. 政府の役割と機能の再検討と再定義を行い、財政は国家のビジョンを実現することになること。2. 税制を全面的に検討し、税収入を増やして充実すること、と課税の公平性を重視すること。3. 債務化基金の管理と運用を強化すること。政府の集金能力を強化し、国家資源の有効利用を増強すること。4. 予算決定のプロセスを調整し、権力と責任が相応する予算の編成プロセスを確立すること。5. 政党政治の健全化によって責任

政治の基礎を固めること。6. 国と地方自治体は財政においては仲間関係を確立にすること。7. 財政の透明性を下げるため、国債発行額の上限を廃止すべきこと。8. グリーン財政改革を推進することによって、環境保護、エネルギーのエコ利用、経済発展を実現する一石三鳥の局面を作ること。そのため、予算議決のプロセスを以下のように調整する(1) 主計処、財政部の役割分担を明確にすること。(2) 立法院予算編成センターと各政党の責任関係を確立すること。(3) 会計検査院の独立性を維持し、機能を強化し、国会が予算を審査する際に協力すること。(4) 立法委員のコスト意識を強化すること。BT